

作成番号:0286

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

号数:2025-286

内容:一過性脳虚血発作(TIA)や軽症脳卒中を発症後 10 年間は脳卒中リスクが高い

出典:Long-Term Risk of Stroke After Transient Ischemic Attack or Minor Stroke: A Systematic Review and Meta-Analysis.

JAMA. 2025 Mar 26; pii: e252033.

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40136306/>

一過性脳虚血発作(TIA)または軽症脳卒中を発症後 10 年の脳卒中発生率の評価の結果が、カナダ・カルガリー大学の研究者らが実施した「PERSIST 共同研究」で示された。研究の成果は、JAMA 誌オンライン版 2025 年 3 月 26 日号で報告された。

医学関連データベースを用いて、2024 年 6 月 26 日の時点で公表されている文献を検索した。TIA または軽症脳卒中を発症した患者を 1 年以上追跡し、この間の脳卒中リスクを報告した前向きまたは後ろ向きコホート研究を対象とした。主要アウトカムは脳卒中の発症とした。38 件の研究に参加した 171,068 例(年齢中央値 69 歳、男性 57%)を解析の対象に含めた。TIA または軽症脳卒中後の 100 人年当たりの脳卒中発生率は、1 年目の 5.94 件から、2～5 年目は年平均 1.80 件、6～10 年目は年平均 1.72 件に減少した。脳卒中のリスクは経時的に上昇し続け、累積発生率は 1 年以内が 5.9%、5 年以内が 12.5%、10 年以内は 19.8%であった。脳卒中発生率は、欧州と比較して北米(率比[RR]:1.43)およびアジア(1.62)の研究で高かった(1.42)。今回の結果は、最初の高リスク期以降における継続的な注意深いモニタリングとリスク低減戦略が重要であることを示している。

Figure 1. Ten-Year Cumulative Incidence and Incidence Rate of Any Stroke After Transient Ischemic Attack or Minor Stroke

